

先輩からのメッセージ

Message



Message

農学専攻
雑草学分野
博士後期課程2回生
久保 朋美



通学路にあふれる身近な植物^{ざっそう}「雑草」は、巧みな生存戦略により人間活動に適応進化する面白い植物群で、生態系の重要な構成要素である一方、農業など生活の様々な場面で厄介な「雑草害」を引き起こします。雑草学分野では「雑草との付き合い方」を考えるため「環境-作物-雑草-人間活動」の関係を明らかにする研究を行っています。私は「除草剤が効かない雑草」の抵抗性メカニズムを解明するため、雑草の形態・生態学的特徴を踏まえて原因遺伝子変異の探索を進めています。雑草研究の舞台は農耕地だけにとどまらず、研究課題も多岐に渡るため、刺激的な毎日を過ごしています。

農学専攻では「自然と調和した持続可能な食糧生産」の実現に向けて、農耕地での生産から食卓での消費までの様々な課題解決を目指し、農産物の遺伝・生理学的な解析、栽培・管理技術の検討、食品の食味・官能性評価など基礎から応用まで幅広い研究課題が展開されています。留学生が多く在籍し、研究を通して国際交流の輪を広げられる点も魅力的です。もしも農学専攻に興味があれば、ぜひ気になる研究室に遊びに行ってみてください。あなたを虜にする研究と出会えるかもしれません。

Message

森林科学専攻
生物材料設計学分野
修士課程2回生
柴 山 風



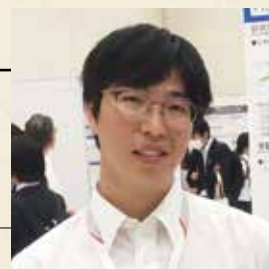
森林科学専攻では、地球環境問題の解決に向けて森林に関連した様々な研究が行われています。

私の所属する生物材料設計学分野では、人にとってより快適な住環境を実現するため、色や手触りなど木材特有の性質がヒトに与える心地よさについて研究しています。中でも私は、木材フローリングを構成する、各ピースの色や形のばらつきが、見た目の印象にどう影響するのかを、画像解析や被験者実験を通じて調べています。また当分野では、経年変化の機構解明や宇宙での木材利用などを目標に、物性に関する研究も盛んです。

森林科学専攻では他にも、樹木の細胞から森林生態系まで幅広い研究テーマを持つ分野があります。私は木材の心地よさに興味があり、外部の大学から現在の研究室に入りました。具体的に分野を決める際、想像以上に専攻内の分野が多岐にわたることを知って、森林に対する興味が一段と広がったことを覚えています。皆さんもぜひ一度、いろいろな研究室を広く眺めてみてください。当専攻でわくわくする出会いが見つければ嬉しいですよ。

Message

応用生命科学専攻
生体機能化学分野
修士課程2回生
中 村 一 統



応用生命科学専攻では、基礎から応用に至る幅広い視点から生命現象を探索し、生命の根本に迫りながら人類の発展に貢献する新しい技術の創出を目指しています。生体が有する様々な機能について、有機化学、生化学、物理化学、分子生物学などの基礎科学的な観点から解明し、バイオテクノロジーとして利用することで、生活や産業に役立てることを念頭においた研究・開発を行っています。

私が所属する生体機能化学分野では、主に電気化学の理論と手法に基づいて、生体膜で生じる様々な反応とそれらの共役により発現する機能について研究しています。さらに、酸化還元酵素の反応機構を詳細に解明することで、バイオ電池やバイオセンサーといった先進的なデバイスの開発にも取り組んでいます。私自身は、化学伝達物質が生体膜を介したイオン透過に与える影響について研究しており、神経伝達をはじめとする細胞間コミュニケーションに及ぼす役割について検討しています。

応用生命科学専攻の魅力は、幅広い研究対象を扱い、多種多様な技術に応用できる点や、広い視野と多様なスキルを身につけられる点にあります。分野を超えて幅広く展開される本専攻での研究活動は、今後の人生にとって大きな財産となるはずです。

Message

応用生物科学専攻
動物栄養科学分野
修士課程 1 回生

福井 康太



応用生物科学専攻には、動物・植物・魚・昆虫・微生物など幅広い生物を対象とする研究室があります。また、遺伝学や生理学、生態学、分子生物学など様々な手法を用いて生物の真理を探究しています。

私が所属する動物栄養科学分野では、マウスやウシ、ニワトリなどの動物や、肝臓や筋肉、脂肪などの細胞を研究対象とし、栄養素の過不足がどのような影響を与えるかを探究しています。私は、肝臓の細胞を研究対象とし栄養素に対して細胞内シグナルがどのように変化するかを研究しています。当分野では他にも、栄養素の過不足によるうつ様行動に関する研究など、栄養素に関する幅広い研究を行っております。

それぞれの分野が複数の種類の生物に対して様々な手法を駆使して研究を行っているの、生き物が好きな人にとって興味ある研究室が見つかると思います。興味ある研究室を見学して、実際に入った時の様子を想像してみてください！

Message

生物資源経済学専攻
国際農村発展論分野
修士課程 1 回生

小田 七彩



生物資源経済学専攻は、その名の通り、農林水産業・食料・環境・農村社会などの幅広い問題群に対し、人文社会科学的な手法を用いて研究を行う分野です。経済学だけでなく、社会学、歴史学、経営学、会計学など、研究室によってツールもさまざま、インタビューなどの質的調査から、データを用いた数値分析まで、手法もバラエティに富んでおり、学際的かつ非常にウイングが広い点が当専攻の特徴です。

私自身、当分野に進学したのは、「日本で食べ物が余っているのに、世界で飢えている人がいるのはなぜ？」という疑問から、途上国の食糧問題に興味を持ったことがきっかけでした。農業や環境というと、縁遠いと感じてしまうかもしれませんが、現在取り組んでいる、南部アフリカ、ザンビアの農村生活と農業生産の関係性の研究でも、「食」は生活の根底にあるものだと思感しています。ぜひ色々な研究室をのぞいてみてください。テーマ、手法ともに懐が深い当専攻は、皆さんがふと考えた疑問の答えを探す場所となるかもしれません。

Message

地域環境科学専攻
施設機能工学分野
修士課程 2 回生

村田 香純



地域環境科学専攻では、持続可能な社会を実現するため、環境問題の解決に必要な生産活動や生活のあり方を確立することを目標に、多角的な視点から研究を行っています。具体的には生態系の動態から農村の現地調査、農業生産技術の開発まで多角的な研究を展開しています。私の所属する施設機能工学分野では、生産基盤を支える農業水利施設を主な対象として、施設の防災対策や保全管理技術の向上に関わる研究、構造物の挙動を予測する解析手法や調査手法の開発も行っています。私は、構造物の設計において重要となる（地下にあるため目に見えない）地層分布を限られた情報から推定する手法の開発を行っています。

ぜひ気になる研究室を訪ねてみてください。面白いテーマに会い、実りある大学院での研究経験につながるはずです。

Message

食品生物科学専攻
農産製造学分野
修士課程 2 回生

岡本 茉紘



食品生物科学専攻では、生命現象やヒトと食品との関わりを軸として、生化学、有機化学、物理化学といった多角的なアプローチで研究を行っています。食は人の生活に欠かせないもので、健康維持や生活習慣病予防のための食習慣の改善など、食と健康に関する課題が多く存在しています。本専攻では食と健康に関する多様な研究に取り組むことができます。

私が所属する農産製造学分野では、食品化学の観点からヒトにとって好ましい食品とは何か、またその食品の設計や製造、機能について研究を行っています。その中でも私は、食物繊維のナノ構造化による腸管内での動態の変化や、健康に与える影響などを調べる、食品の安全性や機能性に関する研究に取り組んでいます。

当専攻では、他にも味覚や食感、食嗜好性に関する研究や、天然有機化合物の研究、身の回りの微生物や機能性食品成分の生体応答メカニズムに関する研究など、幅広い研究が行われています。是非興味を持った研究室を訪問し、先生方や先輩達と交流して、自分に合った研究室を見つけてください！皆さんがやりがいのある研究テーマに会い、充実した大学院生活を送れることを願っています。

修了生のキャリア

Message



Message

森林科学専攻
生物材料設計学分野
2017年修士課程修了
パナソニックハウジングソリューションズ
株式会社 建築システム事業部

吉田 美音



私は、学部・修士課程での3年間、木材の物理を扱う研究室で「木質住環境におけるヒトの快適性」の研究に没頭する日々を過ごしました。そして、その間に生まれた「人にとって暮らしやすい環境を追求したい」という想いから、卒業後は、床材や内装ドアを取り扱う建材メーカーに就職しました。

現在は、新商品の開発に繋がる「技術要素」を発掘し、商品化に向けて市場のニーズと整合する役割を担っています。仕事では材料としての木材に関する知識や、昨今のSDGsへの関心の高まりの中でバイオマスとしての森林資源についての知見が必要な場面もあります。そして、大学院での研究で培った「人が快適に暮らせる住環境とは？」という目線は、今の仕事でも様々な場面で活かしています。

学生時代には進路選択で悩み続けた私ですが、今振り返って思うのは、「自分で主体的に得た学びは必ず将来に活きる」ということです。森林科学専攻で「木材」という大きなテーマに、自分の専門分野だけでなく、様々な角度から向き合った経験は、今も私の中で重要な核となっています。

ぜひ、先生方や学生達との議論を通じてじっくりと学びを深め、ご自身の熱中できる「専門分野」を究めてください。

Message

農学専攻
蔬菜花卉園芸学分野
2019年修士課程修了
JARDINS des FLEURS
山田 晴香



「花の研究をやって、それは一体何の役に立つのか？」
在学中はダリアという花の色素合成遺伝子に関して研究を行っていました。冒頭の質問は、学生時代の所属ゼミでの研究発表や、就職活動の面接、また家族からも繰り返し問われたテーマです。

花は嗜好品でありながら、人が生まれてから死ぬまでの節目に必ず寄り添う不思議な存在です。花は飢えを満たすことも、病気を治すことも、世界から戦争を無くすこともできないのに、人はなぜ花に心惹かれるのでしょうか。卒業後は種苗メーカーに就職しましたが、その答えに辿り着けず、現在はオーグチュールの花屋で日々、お客様の人生の「ここぞ」という瞬間の花に関わらせて頂いています。今後科学や研究の視点を通して、世の中に花や植物の魅力を伝えていきたいと思っています。

研究は学生時代だけのものではなく、形を変えながら一生続きます。専攻で学び周りの仲間と研鑽を積む中で、ぜひそのようなテーマを見つけ出してください。

Message

応用生命科学専攻
植物栄養学分野
2021年修士課程修了
国立研究開発法人 農業・食品産業技術
総合研究機構 東北農業研究センター
笹谷 絵梨



私は在学中、植物の代謝産物を指標として栄養欠乏状態を診断するための研究に取り組んでいました。修了後は生産現場に近い立場で農業に貢献できる仕事がしたいと思い農研機構に就職し、現在は大豆の品種改良を行うグループに所属しています。大豆は豆腐や納豆、プロテイン飲料などの原料となる重要な作物ですが、自給率が低いことなどから収量性の向上が求められています。一口に収量を高めると言っても、例えば植物一個体当たりの生産量を増やす方向性と、生産や流通、加工の各工程におけるロスを減らす方向性があり、様々なアプローチが必要です。一つの決まった正解像がないことは難しいですが、それがやりがいに繋がっていくと感じています。これまでに育成品種の普及に向けて生産者や関係機関の方々とお話することができ、貴重な経験となっています。現場で必要とされていることを理解し、その解決につながるような品種育成や知見の解明により農業に貢献していきたいです。

Message

応用生物科学専攻
畜産資源学分野
2022 年博士後期課程修了
岡山大学学術研究院
環境生命自然科学学域（農学部）

勝 俣 沙 智



子曰く「知之者不如好之者、好之者不如樂之者」努力は夢中に勝てない」。私は畜産資源学分野で、自由に研究を楽しみ、夢中になることを覚えました。自由には失敗もつきもので上手くいかなかったことも多いですが、指導教員や周りの先生方の背中を見て、大学教員になりたいと考えるようになりました。私の周りには、研究に夢中になっている大人が多かったとも言えます。

私は在学中、主に反芻動物への発酵食品副産物の給与効果について研究しました。修士課程ではタイに滞在し、在来種牛で代謝試験を実施しました。雨季の度重なる停電でデータが取れなかったり、シロアリに食べられて家の天井が落ちたり、困難も多かったのですが、共同研究者の皆様のおかげで無事に論文になり、今では良い思い出です。博士課程では、滋賀県の試験場に約2年間通い、酒粕ミルクを与えた子牛の血液成分や糞便性状、細菌叢などを調べました。現在は肉用鶏を用いて、と鳥前の絶食ストレスが熟成後の肉質に及ぼす影響について調べています。振り返ると、学生時代楽しく研究し夢中になれていたおかげで、現在もそのスタンスを崩すことなく過ごしています。応用生物科学専攻は皆さんが研究に夢中になれるところです。

Message

生物資源経済学専攻
農学原論分野
2024 年修士課程修了
アクセンチュア株式会社
ビジネス コンサルティング本部

東 城 由 佳 理



農学原論分野では、学生の興味関心が尊重され、幅広い研究が行われています。私は福島県双葉郡の楢葉町をフィールドに、原発事故による避難経験やその後の生活について、若年層の方に聞き取り調査を行い、環境社会学や地域社会学の枠組みを用いて修士論文を執筆しました。楢葉町での生活や、様々な方との出会い、調査で伺ったお話は今でも鮮明に覚えています。また、ゼミや、「延長戦」であるゼミ後の食事の席で、先生方・先輩方と長々と議論したこと、幅広い先行研究を読み、何度も書き直ししながら修士論文を仕上げたことも、大切な経験となりました。

研究者の道には進みませんでした。現場を見て一次情報を得ることの大切さや、物事を批判的に見る姿勢は、研究を通して学び、現在の仕事にも通じるものです。また、縁あって林業に関連するプロジェクトに参加したり、地方自治体の財政分析に取り組んだりした際は、学生時代を思い出し、懐かしく思いました。フィールドや当専攻・当分野での出会いと、一つのテーマについて突き詰めて考えた日々が、今の私を形づくり、支えてくれていると感じます。皆様もぜひ、新たな出会いと、試行錯誤に溢れた研究生活を楽しんでください。

Message

地域環境科学専攻
水環境工学分野
2019 年修士課程修了
農林水産省 農村振興局

伊 藤 真 帆



私は在学中、地域環境科学専攻水環境工学分野で石川県手取川扇状地における水循環について研究に取り組み、水の安定同位体比や地下水流動シミュレーションなどを用いて扇状地における地下水形成過程の推定を行いました。

修了後は、専門を活かして農村地域の農地や水を守る仕事がしたいと思い、農林水産省に入省しました。これまで、ため池の防災減災対策や国営事業所での農業水利施設の整備に携わり、現在は農業農村整備事業全般に関する調整業務を担当しています。国全体に関わる施策の企画立案から現場での工事実施まで幅広い業務を経験することができ、多角的な視点から農業・農村の課題解決に取り組んでいると感じます。今後さらに経験を積み、農業・農村がより良いものとなるよう貢献したいと思っています。

Message

食品生物科学専攻
生命有機化学分野
2024 年博士後期課程修了
第一三共株式会社
研究開発本部研究統括部

八 木 田 凌 太 郎



私は大学院で、古くから薬として利用されている「朝鮮五味子」に含まれる、抗HIV活性を持つ天然物の合成研究を行っていました。大学院での研究を通じて培った有機化学の知識や技術を活かし、より直接的に人々の健康に貢献できる仕事がしたいと考え、新薬開発の最前線に立つ製薬会社の研究職を選びました。

現在はメディシナルケミストとして、新薬候補化合物のデザインや、それらの有効性・安全性の評価を行っています。特に、薬効を高め、副作用を抑えるために化合物の構造を修飾し、最適な分子を見つけ出すことに注力しています。多くの実験やデータ解析を要しますが、病気に苦しむ人々に効果的な治療薬を届けられる可能性があることが、大きなやりがいとなっています。

将来的には、現在の技術や知識をさらに深め、難治性疾患や未解決の医療ニーズに応える新薬の開発に貢献したいです。また、AIやデータサイエンスに関する知識を深め、より効率的で革新的な薬の設計にも挑戦していきたいと考えています。